

「気仙の花「椿」を軸とした産学官連携への取り組み」

学校名

岩手県立大船渡東高等学校 造園専攻班

1. 概要

- ①気仙（大船渡市、陸前高田市）と本校造園専攻班は、椿を通して、植樹、椿増殖、商品開発などの連携活動を行っており、県の天然記念物に指定されている、「三面椿」の保護活動にも参加している。
- ②大船渡市は、「椿の里」創造、「ツバキ産業化プロジェクト」が課題となっており、その推進のために、本校造園専攻班の課題研究の取り組みとして参加している。
- ③椿産業による振興が停滞している状況にあり、新規事業による革新的な取り組みが必要である。また、椿を市の花としている大船渡市、陸前高田市の気仙全体での取り組みが必要である。そのため、地域企業及び自治体と三位一体の活動による推進を目指している。

2. 目標

- ①産学官連携体制の確立
- ②「椿の里」創造への貢献
- ③気仙の未来につながるプロジェクト活動を開始する。



3. 計画

①長期計画

- | | | |
|-------------|---------------|------------------|
| 1年目（平成29年度） | 産学官連携活動の土台を構築 | 連携活動開始 |
| 2年目（平成30年度） | 産学官連携活動の拡大 | 連携活動発展 |
| 3年目（平成31年度） | 開発した商品の販売及び促進 | 開発持続的な産学官連携活動の検討 |

②短期計画（今年度）

○株式会社バンザイファクトリー（陸前高田市）との連携活動

- ・商品開発
- ・レッドカーペットプロジェクト
- ・祭共同開催に向けた計画

○自治体との連携活動

- ・企画調整課との連携 「ツバキ産業化プロジェクト」（新規）
- ・農林水産課との連携 「椿祭」参加に向けた取り組み（継続）
- ・観光推進室との連携 「大船渡市産業祭」参加に向けた取り組み（新規）

○企業連携拡大に向けた取り組み

- ・酔仙酒造との連携



4. 実践・結果

実践1 企業との連携活動

①バンザイファクトリー

○連携活動検討会（3月、6月、12月）実施により、以下の項目について決定。

- ・秋刀魚の椿廃材燻製の共同開発
- ・レッドカーペットプロジェクトの参加
- ・バンザイファクトリー主催の「ツバキ祭」（仮称）の共同開催に向けた取り組み

○加工食品

- ・秋刀魚の椿燻製における共同開発を行い、加工は製造許可のあるバンザイファクトリーが行い、味付け、燻製に利用する椿・桜の配合及び試食会開催は、造園専攻班が担当した。
- ・秋刀魚不漁による代替商品開発として、気仙鮎が特産品であることから、落ち鮎の椿燻製の共同開発を実践。秋刀魚の加工方法を用いて燻製の製造に着手。産業祭（観光推進室と連携）での試食アンケート調査を行った。結果は、味や硬さで多くの問題点が判明した。・

鮎加工品は、多くの課題点を解消するために、加工方法を1から見直し、燻製前の調味の段階から様々な方法で、試作する方向で一致、現在試作を重ねている。(ぬか漬、酒粕漬、塩麴漬、椿灰を利用したえぐみの解消など)

○レッドカーペットプロジェクト

・「気仙の海岸沿いに、復興の証として、椿の絨毯を」としてバンザイファクトリーが進めているプロジェクトに、参加。気仙で唯一ツバキ苗生産を行っている本校が苗を提供し、バンザイファクトリーが所有または借り入れている圃場に椿を定植。植樹を通じて、交流の輪を広げている。現在まで、4回実施。2回目の活動では、神奈川の高校生との交流植樹を行った。(詳細は、バンザイファクトリー f b)

○椿茶製造

・キャリア教育を兼ね、バンザイファクトリーの代名詞的商品となっている椿茶製造作業の体験を行った。パートタイマーさんとの交流の中で、新たなアイデアも生まれるきっかけとなった。

②酔仙酒造

・農林水産課から紹介して頂き、椿オイルを添加している「オールインワンジェル」での原材料供給や鮎加工品の際に使用する酒粕の提供などで連携することを確認した。

実践2 大船渡市との連携活動

①企画政策部との連携活動検討会

大船渡市のツバキ産業化について、「企業と連携した商品開発」というモデル図で、本校の位置づけを確認した。しかしながら、計画の中で、本校の活動が受け身となっていたため、大船渡市における椿の第一人者、世界の椿館林田館長より、「学校と市の密接なつながりが重要である」とアドバイスをいただき、第2回の検討会で、「双方向の活動」を提案し、「市と共に歩む活動とする」ことで一致した。

②観光推進室(主任 新沼篤さん)との連携による大船渡市産業祭りへの参加

バンザイファクトリーとの共同開発商品である、鮎の椿燻製の試食会開催の場として、企画政策部を介して、観光推進室新沼主任を紹介して頂き、産業祭において出店ブースを無償提供して頂いた。

③大船渡市椿利活用推進事業 鄭(チョン)コーディネーターとの連携

大船渡市との椿を介した連携活動を実施する際、連絡が煩雑となってしまうことを観光推進室に井沼主任に相談したところ、鄭コーディネーターを紹介して頂き、プロジェクト推進の際、連絡窓口を鄭コーディネーターで一本化して頂くことで一致した。

④農林課(佐々木主任及び鄭コーディネーター)との連携活動

- ・連携活動検討会(12月)を実施し、椿生産における各事業で、連携を図ることとなった。
- ・レッドカーペットプロジェクト圃場の土壌検査で協力して頂くことでつながることが出来た。
- ・今後実施される、各教育機関を巻き込んだ植樹活動での連携を確認した。
- ・椿種実に特化した、大船渡独自品種の作出に向け、10年程度での共同作出を目標とした。また、シカによる被害防止に向けたプロジェクトを開始した。

5. まとめ

実践1 商品開発、植樹活動など椿を軸とした連携活動の大きな一歩を踏み出すことが出来た。

実践2 「椿の里」創造にむけて重要な位置付けを確認した。

実践3 長期的なプロジェクト計画を策定する足がかりとなった。

6. 課題

- 1 短期的な結果を出せるように、早急な商品開発を行う。
- 2 新品種作出や害獣被害対策など、専門的な技術・知識の習得を行う。
- 3 自治体のみならず、地域交流の促進から、地域に根ざした活動を目指す。

